愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	インターンシップＢ		
担当者(Instructors)	鈴木 直政	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

小学校に出向いて、実際の授業の様子を６時間分参観する。子どもと教師とのやりとりや教師の指導方法の工夫など、教育現場の姿に直接触れることを通して、子どもの実態と教師の役割について理解を深め、教師としての素養を高めていく。ここで学んだことは、４年次に行われる教育実習に活かすことになる。また、文科省が重視している「学校インターンシップ活動」の一環としても位置付くものでもある。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	実験・実習
授業の方法(Class method)	サービスラーニング実習校として連携してきた名東区の小学校で３日間、低学年・中学年・高学年（予定）の授業参観を行う。あらかじめ授業の様子を観察する視点を設定した上で、教師の活動及び児童の反応について観察する。その後、参加した学生間で報告・集団討議を行い、板書や発問、指示の仕方等の授業の基本的な進め方について学ぶ。また、一斉指導をするときの留意点やグループ学習の進め方、習熟度差への対処方法等についても理解を深めていく。さらに、令和3年度から導入されたタブレットの活用の仕方についても学んでいくようにする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	授業参観についてのガイダンス	単元のねらいや単元構成など、１時間の授業をするために必要な事項について理解し、授業参観の目的について把握する。	□
第2回	授業を参観する時の視点設定	授業を参観するときの視点を分類・整理し、授業内容に沿って自分が参観する視点を設定する。（発問、板書、学習形態、ITCの活用等）＜レポート提出①＞	□
第3回	低学年の授業参観（２限）	低学年の授業（２時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の様子を録する。	□
第4回	低学年の授業参観（3限）	低学年の授業（3時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の様子を録する。	□
第5回	低学年の授業参観の振り返り	参観した授業を振り返り、教師の指導方法について大切なことや工夫されていたことを発表し、基本的な指導方法の在り方について話し合う。＜レポート提出②＞	□
第6回	中学年の授業参観（２限）	中学年の授業（２時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の様子を録する。	□
第7回	中学年の授業参観（３限）	中学年の授業（３時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の様子を録する。	□
第8回	中学年の授業参観の振り返り	参観した授業を振り返り、教師の指導方法について大切なことや工夫されていたことを発表し、基本的な指導方法の在り方について話し合う。＜レポート提出③＞	□
第9回	高学年の授業参観（２限）	高学年の授業（２時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の様子を録する。	□
第10回	高学年の授業参観（３限）	高学年の授業（３時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の様子を録する。	□
第11回	高学年の授業参観の振り返り	参観した授業を振り返り、教師の指導方法について大切なことや工夫されていたことを発表し、基本的な指導方法の在り方について話し合う。＜レポート提出④＞	□
第12回	児童の発達段階と教師の指導法	児童の発達段階に合わせて、事前に設定した各々の視点における教師の指導法について重要な点を話し合う。	□
第13回	教科の内容と教師の指導法	それぞれの教科の特性をつかみ、教科ごとの教材研究の在り方や必要とされる教師の指導法について話し合う。	□

第14回	基本的な教師の指導力を確かにする模擬授業	児童の発達段階に合わせた発問や指示、板書の仕方、タブレットの活用方法といった指導のポイントを意識して模擬的な授業に取り組む。	□
第15回	授業参観の成果と自分の今後の課題	授業参観で学んだことを振り返り、教育実習に向けての自分の課題を集団討議を通してまとめる。＜レポート提出⑤＞	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

参観する授業の資料（教科書等）を読んで、授業のねらいや内容をしっかり把握し、参観するポイントを整理しておく。（3時間程度）　授業参観を通して自分が学んだことや集団討議で話し合ったことを整理して、指導方法のポイントをレポートにまとめる（２時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出されたレポートは添削した上で返却するとともに、学んだことを活かして行った模擬授業についてもコメントして、自分がこれから学んでいくべきことの指針とできるようにする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019全学共通DP2	基礎学力を踏まえた専門知識と自らのキャリア体験を基に、創造的に考えたうえで、課題について的確に判断し、自在に表現、発信することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内容のまとまりごとに、理解したことや次の課題となることについてレポートにまとめて提出する。（5回）集団討議における発言や最終レポートを通して、指導方法のポイントや児童の実態についての理解度やそれに取り組む意欲的な態度について把握する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	参観する授業の教科書	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	学習指導案例集（名古屋市教育委員会）	
2	新任教員の研修用手引き（名古屋市教育委員会）	
3		
4		
5		